



最終号

発行所：サイバードーム

- 本誌はいのちの祭り会場にて毎日発行する壁新聞です。参加者が祭りに気持ちよく参加でき、また祭りを盛り上げるのに役立てばと思って発行してきました。今回が最終号です。短い期間でしたが、ご愛読ありがとうございました。またどこかでお目にかかれるのを楽しみに！
- ご希望の方に『Daily Gaia』のセットをお譲りします。A3版計20枚送料込みで¥1000です。申込みは=FAX.04996-7-7071/amanakuni@nifty.ne.jp 名前のない新聞まで
- 祭りのレポートはホームページに載せていますので、下記のURLからゆっくりご覧下さい。
<http://www.interq.or.jp/tiger/amana/maturi/index.html>

いのちの祭り終了

いのちの祭り2000は短い準備期間と運営方針の迷走、スタッフ不足、毎日降る雨などいろんな問題に悩まされながらも、9日、無事に終了しそうだ。

この祭りをどう評価し総括するかはまだ出し切れないが、最終号なのでなるべく多くの参加者の声を載せると共に、この祭りの柱と思われるいくつかの面でのまとめを載せることにした。これをもって本誌はお役目ごめんとしてもらい、あとはホームページの方で事後報告も行うことにしたいとおもう。(アドレスは上記)

21世紀の実験サイト？ それともレジャーランド？

●ウーマンズテント

男たちがたてて、女たちがまもった。まつりの家だった。平和の灯がともり、サークルをかこみ、おだやかな語りがうまれる。子供たちは自然にあつまり、すやすやと昼寝をしている。この風景は、まつりの間のあたりまえの風景だった。

忘れたくない従軍慰安婦のこと、助産婦さんにかかっていた自然分娩のこと、チベット仏教の話、布のナプキンのワークショップもあった。

出合いがあり、涙があり、見えない多くの女たちに守られているようだった。

3日の夜、平和の灯をともし、祈った。

その祈りは天にとどき、灯はおんなたちのこころの種となり、きつとゆつくりと育っていくのだ。

●コンサート

音楽サイトサイトは、おなじみのベテランミュージシャンから、若手までジャンルが豊富で、内容は、充実していたように思う。

アドリブステージで、大鹿村のまつり経験者の子供たちのステージは、大人達から、あたたかい拍手を受けていた。

それは、ステージの中身の問題ではなくて、88のまつり経験者達の子供達に、こうして受け継がれていくことに、感慨深いものを感じたのではないだろうか？

虹の村で行われた子供たちによるミュージカル「天然木」。舞台は、12~17歳の子供達によるものだった。本来子供は、夢を持ち、未来に向かい、輝くべきものなのだを教えてくれた。舞台では演技とはいえ、子供本来の輝きを、十分見せてくれた。涙を流した大人達もいた。こんな子供達の未来を、頼もしく思った。

また、栃木県からきたという10歳の男の子、ショーちゃんの弾き語りは、大人顔負け。ストリートで、ギターケースを置くあたりがまたにくい演出。知る人ぞ知るちよつとしたスターだ。どんなミュージシャンになるやら。将来有望なミュージシャンになることだろう。

大人によるまつりではあったが、こうしてその中で十分、大人達を唸らせる子供達がいる。まだまだ未来は、明るいぞと感じさせてくれた。思わぬ収穫だった。



●フォーラムまとめ

毎日多彩な内容で行われたフォーラムは、参加者の提案で、今回の参加者間で今後の活動協力、情報交換を行うための「いのちのネットワーク」を作ることが決まりました。また、フォーラム講師、参加者有志により「いのちの宣言文」をまとめることが決まりました。

「賢治の学校」の鳥山敏子さんのお話をきっかけに、参加者の思いが高まって、泣いて笑ってのフリートークとなりました。フォーラム全体を通じ、ショックあり、笑いあり、涙あり、新たな取り組みが生まれる機運ありで実り多いフォーラムだったと思います。

●ごみ

まつり開始時点でゴミの回収方法が後手に回っていましたが、ゴミ袋を有料で配布し、分別回収するシステムを実行。まつり参加者の協力もよく、トラブルなくゴミ回収を進めることができました。

夜間はゴミの回収をしていなかったもので、朝になってゴミが散乱してしまっているのでは？と危惧しましたが、マナーの良い人が多かったことに感謝。

この会場は通常は牛の放牧場ですので、ゴミが残らないようご協力ください。

お帰りの際はテント周りのゴミも捨ててもらえるとたいへん助かります。

【9日】

●クロージングセレモニー

10:00~12:00 集合場所/虹の村

(虹の村へは歩いていこう)

ヒーリング・ボイス(「天界の愛の響き」)

祝詞

広場中央に火を置く

長崎と全ての核エネルギー被害者への祈り

大地への感謝の祈りと踊り(大鹿村)

昇神の譚

巫女舞(「水の浄化の舞」) 巫女講座

ドラミング

全員でセッション

片づけ・撤収スタッフ募集

祭りで設営されていたセットなどの解体・撤去などの作業が、9日午後から本格的に始まります。

9日午後はスタッフやボランティアだけではなく、残られている方全員での作業となりますので、みなさん一緒に力を合わせ、いぎましよう。

10日以降の作業スタッフも本部では募集しています。

虹の村から

ありがとう、すべての、
いのちの、祭り。

8月8日午前8時。祈りを捧げるために集まり始めた人々が静かにピースドームの中に入っていきます。静寂の中、一人ずつ広島の火をろうそくに灯しては、祭壇の上に置きます。昨夜遅く焚き火のそばで急遽決まった平和の祈りの決定は、翌朝には皆に自然に伝わり、参加者達はゆっくり丁寧に心を込めて祈りのプロセスを進めていきます。祭りの成就と平和を願う祈りと共に火を灯し終えた後、太鼓の音に合わせたインディアンの唄が始まります。参加者達の祈りの歌声が高く高く舞い上がります。そして、亡き魂達が見守ってくれている霊界ティピへ向かいます。祭壇中央に祭られた大鹿の角がつけられた杖は、メディスンマン ロバート・スティードさんの葬儀の際、葬列を先導したスタッフで、ロバートさんの魂が宿るといわれているものです。1990年当時、今後10年か11年後までに日本に危機的状況に陥るであろうという夢見を得たという彼が、遠くアメリカから日本の大鹿村に赴いて危機回避のためのセレモニーを行って下さってから今年ちょうど10年目。セレモニーの2年後に大鹿村に託されたスタッフは、この祭りで初めて村を出ることになったのです。生きている者だけではなく、目には見えない多くの先人達の魂や意識とも共に調和すること。私達に向けられているこのまなざしを、尊び感謝することで、新たな時代への絆が生まれます。

自然発生的に生まれた静かな祈りの集いの後、人々は不思議な力を得たように生き生きと楽しそうに動き始めました。駐車場案内係、炊事係、ヒーラー。水をタンクに確保する人々、雨に備えて新たな入村者達のためにビニールシートを竹のドームに被せる人々、駐車場スペースを拡充する人々、ドームのゴザを乾かす人、音楽を始める人、瞑想する人、子供達と向き合って絵を描く人々、補充物資を確認する人…。もうスタッフ・一般参加者の区別は、まったく存在しません。最高の役者がすべてそろった完璧な舞台のように、この村にはすべてがあるのです。すべきことは、すべき人が自然に思いついて実行していく。一人ではできない作業には、周囲の人々が即座に加わる。すべての配役が、素早く完璧にこなされて

いくことの美しさ。生活がこのように活気あふれ、楽しいものであったなんて。すべての人が中心人物として堂々と動いているワクワク感。「この村にいない人はお巡りさんぐらいかな。人のことを叱るだけの人はいないね」。好きな時にとる休息のおしゃべりも、また楽しい。村では、けが人や体調のすぐれない人が不思議なほど早く治癒していきます。昨日、左手の指をナタで切ってしまって傷口を縫ってもらった人が、翌日にはギターを楽しげに弾いている…。一人の調和と村全体の調和が重なり合っているのです。

☆

「この村にもっと暮らし続けたい」。祭り最終日になって、そんな会話がよく聞かえてくるようになりました。生活を楽しむかけがえのない一体感こそが、村づくりの最も大切な命。多様な意識によって生み出される一つの意識は、現実を大きく動かしていきます。実際、この村に1カ月間「暮らし」続けたとしたら、大きな意識改革が起こることでしょう。祭りが終わろうとする今、ようやく自分達が祭りで最高の日常生活を送っていることに気が付いたのです。日常生活、当たり前のことを、もう一度見直すことの大切さ。そのためには、自分の命を本当に生かすだけでいいのです。この村づくりに参加した多くの人々が、新しい種となり各地にまかれることでしょう。新たな祭りの始まりです。

☆

夕方になってからの激しい雷雨。日の入りと共に始まるウイチヨール族のシャーマン達によるセレモニーの火が灯されました。雨から火を守ろうと、竹とシートを使った臨時のテントが周囲の男性陣によって素早く組み立てられます。中央の火は、生命の光なしに私達を決して孤立させない大いなる太陽の象徴。神のメッセンジャーと一体化したシャーマン達の祈りの歌声が次第に高まっていきます。風の神、水の神、大地の神、火の神、太陽の神、月の神。夜通し続けられる神々との対話。昨年、沖縄でセレモニーを行って以来、2度目の日本でのセレモニー。「日本人は神々を信じず感謝もしない。神々をあまりに無視するので、神々は眠っていた。しかし、今ここに神々は目覚めた。私達は自分達に出来ることをするしかない。まずは一人一人の意識改革を起こすことだ」。沖縄で目覚め、今、ここ鹿島槍ヶ

岳のふもとで見守ってくれている神々。私達にも、本当の自分に目覚める時が来たようです。

☆

今、地球に必要なものは何でしょう。その答えは、すべて祭りが教えてくれました。流れる雲のように、自らの感情をにっこり笑って流す。浄化をもたらす恵みの雨を、自らの内にも降らせる。すべてを照らす火を、自らの内に灯す。雨や雲や太陽のように、すべてに分け隔てなく、自らの宝物があるがままに差し出す。善と悪、物質と精神、古いものと新しいもの、上と下、静と動、祈りと行動、思考とハート、そして日常生活と祭り…。自ら生み出したすべての分離をひとつに戻しながら。「あなた」とは「私」をそのまま映し出してくれる合わせ鏡。本当は一つ。

☆

シャーマンのドン・パンチヨの歌声が続きます。ようやく目覚めた神々のメッセージは、私達に何を伝えようとしているのでしょうか。沈黙の中、広がる歌声。内的静けさの中、立ち上る祈り。本当に生きるからこそ、命を祭ることです。ありがとう、すべての、いのちの、祭り。

☆☆☆☆☆☆

この新聞を読んで下さった方々、取材にご協力いただいた方々、本当にありがとうございました。虹の村で取材・執筆という役割を与えられたことは、私自身にとっても大きな気づきになりました。今はろうそくの火も消えて、本当に真っ暗闇です。時々、外から励ましの声をかけてくれる人々の姿もまったく見えない状態。さあ、火のそばに行つて、祈りに加わりましょう。夜の色は光色、私のいのちも。何も怖くない、何も邪魔じゃない。(近藤なおこ)



- 1 名前(とし) キャッチした場所
- 2 どこから?
- 3 まつりはどうやって知ったの?
- 4 いつ着いたの?
何を楽しみにしてた?
- 5 まつりでのごと、役割
(書いてない場合は聞き忘れた)
- 6 まつりの感想
- 7 ひとこと!

インタビュー：滝沢なおこ

- 1 うらべあつこ (20) 中央広場のお店の前で
- 2 奈良
- 3 友人から聞いて
- 4 6日の朝。天空のライブを楽しみにしてきた。ファンなんです。
- 6 すごい。日本にこんなひとがいっぱいたなんて。。
- 7 「皆、ほんまは天使やね」

- 1 イサムのむすめ (16) プラザ前メインストリート?
- 2 広島
- 3 イサムの娘なので。。
- 4 7日。近くに来てて、帰りに寄りました。
- 5 親の手伝い。
- 6 楽しい
- 7 「来年もやってください!」

- 1 ひろみ (30) やえこ (47) 本部前水場で
- 2 ひろみ：東京 やえこ：サンフランシスコ
- 3 友人から
- 4 3日から。こんどうとしのりとか、レイヴかな。
- 5 特にない
- 6 ひろみ：日本のヒッピー文化を見られて興味深い。
やえこ：タバコがすごく気になる。日本ではあまり問題にされないでしょ。せっかくこんな空気のいいところに来ているのに、もったいないよ。

7 「もっと語りあわなきゃ」

- 1 八木 彩子 (30) 虹の村・地域通貨ブースで
- 2 東京。三鷹のグルッペで働いてる
- 3 「なまえのない新聞」とか読んで
- 4 7日から。天空のライブ。あと、場を楽しみに。
- 5 特になし
- 6 ベッド借りてて、今日は虹の村に来てみた。ここはのんびりしてる。きのうはウィメンズ・ティピのイベントに出て、すごく良かった。おんなとして、よかった。伝わってきた。(おんなとしても、こういうくらしという意味でも) せんぱいがいっぱいいるのがいい。
- 7 「大きい山のなかで、テントがあって・・・好きな世界です。ここには余分なものがない」

- 1 いたうゆきえ (28) 虹の村で
- 2 東京・武蔵小金井
- 3 はらっぱまつりに行ったら、すごく心地よくて。。このまつりのことは、ほびっと村のチラシで。
- 4 自然とかひとのつながりができたらいいなって思ってた
- 5 興味はあったけど、今回はまず自分が楽しむという感じ。機会があったらスタッフもやってみたい
- 6 ウィメンズ・ティピに泊まっている。日々、いろんなことがすごくある。
- 来てすぐは、楽しそうなことがたくさんありすぎて混乱したけど、だんだん落ち着いてきた。そういう自分の変化が見えるんだよね。
- 7 「ありがとう。感謝の気持ちでいっぱい」

- 1 ながた るい (19・MALE) 虹の村で
- 2 札幌から。新潟・東京・長野って旅をしてきたところ。
- 3 年の離れた友人に連れられて。親がヒッピー系で、こどもの頃こういうまつりに来たことがあるっていうのもあるかな。
- 4 へんな音楽(を楽しみにしてきた)。タイコとか。
- 6 景色がいい。まったりしてる。音楽は好きだけど、でも僕夜はすぐ寝ちゃうんです。
- 7 「平和であればいいんじゃないでしょうか」

- 1 おおしまのぞみ (22) 駐車場で。
- 2 東京。北アルプスに登って降りてきて、あ、そういえば「いのちのまつり」やってるなって思って車でそれらしい人たちを見つけて聞いて、ここまで来た。
- 3 友だち
- 4 「いのちのまつり」というもの
- 5 友だちの店の手伝いとか。
- 6 楽しい。高山はいい! 虹の村がもうちょっと近かったら良かったかな。
- 7 「楽しむところは楽しんで、考えるところは考えて」

- 1 ほったまゆみ (21) 虹の村に続く道の駐車場で。
- 2 東京。でもいまは家探しの旅の途中。
- 3 人づて。
- 4 旅の途中でなんとなく来た。
- 5 カレの作った竹タイコをのんびり売ってる。
- 6 人がいっぱい。おおきくて、びっくりです。
- 7 「みんな楽しませよう」

- 1 たろう (27) まゆみのカレ
- 2 まゆみと家探しの旅中。
- 3 とろんとか、みんなともだちだから。
- 4 この世にあそびに来た
- 5 自作の竹タイコ売ってる
- 6 字が多い(絵が少ない)! オーガナイザーがちょっとウザいね。
- 7 「あんまりいのちをまつってない気がするなあ」

- 1 いがらし まり (22) ソーラーステージ前で
- 2 横浜。「ナマケモノ・クラブ」やってます。
- 4 7日から来て、テントはってる。なにかあるかなって感じて。
- 5 特にやってない
- 6 みんなハッピーそうで、あたしもしあわせ。まつりって、いろんな人がいっここになれるから・・・大変な時期だと思うけど、ここに来て元気をもらった。いろんな人におまつりに来てほしい。
- 7 「みんな、ナマケモノになろう」

インタビュー：宮下節子

アドリブステージ責任者 ミッキーさん

アドリブステージは、少しでもたくさんの人に使ってほしく、出演したい人の申し出は、すべて受けなかったの、その調整がたいへんだった。昨晩も演奏が終わったのが3時、20人いるスタッフに恵まれた。本当によくやってくれた。出演者、お客さん共に喜んでくれたと思う。

50代男性
いいまつりだった。女性の時代になってきたと思う。女性の活躍が、目立った。

ZION-HIGH メンバー
今回こんなにたくさんのステージに出演できて、嬉しい。いつまでも音楽を続けたい。

50代男性 地元 88まつり経験者
自分たちがやってきたことを、子供たちが引き継いで活躍しているのが何より嬉しい。

30代女性、バザー 出店者

まつり参加者の声1

インターネットを見てまつりを知った。場所がよく、雰囲気がいい。

20代男性 元気村スタッフ
食べ物屋なので、売り切れ状態になるほどよく売れた。個性的な人ばかりで、楽しかった。地雷撲滅に協力してくれ

た人が、多くいて嬉しい。

20代男性 東京
場所がいい。いろんな人がいて、こんな世界もあっていいと思った。

30代女性 横浜
子供と、犬がたくさんいて、いろんなジャンルの人がいて、いろんな事に興味をもつ人間がいて、それでいいんだと思った。

30代女性 愛知
友達に頼まれて、カレー屋の店の手伝いに来た。自分が何故、ここにいるのか今だによくわからない。

50代女性 地元 まつり経験者
88と比べても、決して劣らない中身だったと思う。

祭り感想文(くるくるバザール編) インタビュー：矢原理彩

ガイネ 36歳 神奈川県 舞台スタッフ、ミュージシャン
88の時に比べてあまり柱が見えてこない。

トット 東京都 プレワークショップスタッフ
なんか世の中の縮図そのままってかんじ

齋藤鉄平 27歳 神奈川県 舞台スタッフ
楽しかった。

大竹一成 東京都 設営スタッフ
ライブが時間通りに進行しないで、もったいないと感じることが多かった。祭りだから時間きっちり、とは言わないがもう少しやり方があるのでは。よくばりすぎ、なにかもやろうとしすぎて、できなかったことがある。地域通貨も発想はおもしろいが実際には難しい。めんどくさいと思う人がいるはずだからそういう思いを引きずってまでやることか、疑問。

BUN (KOH-TAO) 34歳 東京都 ミュージシャン、舞台スタッフ
ここで、スタッフやってて、めっちゃいそがしかったけど、

虹がきれいだった。フルにステージもみれて、楽しかったっす。

南條倅司 46歳 東京都 ミュージシャン
スタッフにRespect!

グルーエット・三紗絵 12歳 長野県 バザール出店
看板を描くのがとっても楽しかったし、教室もやっていていろんな人にあえていろんなことを話して、ずっと楽しかった。

矢島圭位子 21歳 静岡県 受付スタッフ
楽しい。いろんな人との出逢いがあって、受付も楽しかった。自然と共存していきたい、改めて。

植田まや 21歳 静岡県 受付スタッフ
大人の不良?(笑)がいっぱいいておもしろかった。88以来で、むかしあそんでた子とひさしぶりの再会したり・よかったあ〜。

猿田壮也 32歳 埼玉県 設営スタッフ
おもしろかった。来年もやってくれ。

谷口菜葉 8歳 長野県
まあその辺でフラフラしながら遊んでます。思いっきり楽しかった。

30代男性 大阪府 バザール手伝い
ステージの数が多すぎたのでは? 落ち着かなかった。音か交錯して混乱してしまう。次が楽しみです。スタッフの方、ご苦労様でした。

奈良和子 25歳 千葉県 バザール出店
なかなかスタッフのお手伝いはできず、申し訳ないな・・・と。布ナプキン作りの人たちで輪になり感謝の気持ちをこめて・・・
なみだあふれるお祭りでした。

30代女性 東京都 バザール出店
始まる前は、参加したいこと、やってみたいことがたくさんあったけど、実際始まってみるとあまりに盛りだくさんで、思っていたことの半分もできなかったのが、残念でした。9日間ってのんびりできるなっておもってたけど、あつというまででした。次っていつ? 12年後? 不完全燃焼のひとが多いと思うから、来年もやろうよ! 21世紀をもっと素敵なお祭りを迎えよう。

インタビュー：近藤直子

いろんな声が、みんなつながっている。すべてのいのちに、ありがとう。

真っ白なシナリオが少しずつ書き加えられていき、虹の村を舞台にすばらしい物語が生まれました。いろんな役者のいろんな声が聞こえてきます。その一人一人が主役でした。雨も雷も虹も霧も。木も草も石も水も火も空気も。地上で役を全うし終えた命も、これから生まれる命も。ひとつでも欠ければ成り立つことのなかった完璧な配役。そしてこの物語は、終わることはありません。地球という一つの舞台上で、新たな伝説が始まろうとしています。

笑っていれば、笑顔がかえってくる (ZEN・男・30歳・駐車場係の兄ちゃん) ●いろんな人と出会い、話をするために来ました。今は満足しています。空気が気持ちいい (圭・20・男・学生) ●気持ちの良い場所と時間をありがとう。2000年のグラストンベリーに行っても日本にもこんなところがあれば良いのにな！と思いましたが、この“いのちの祭り”虹の村にありました。スタッフの皆様ありがとう。お疲れ様！(さくら・女・ライター) ●平和の願いが多様で、各々の集い方ができて心地よかったです (高橋裕一郎・24・男・柔道整腹師) ●みんなが自然に参加していているようで、どんどん心地よくなってきました (ゆり・31・女・フリー) ●村が平和なオアシスのようでよかったです。国・人種・性別を超えて、みんな仲良く暮らしてきたい (雅・38・女・木工アクセサリー) ●日に日に一つの共同体になっていくのを感じました。男の人も女の人もお互いに助け合って、気持ちよく動けました (マキ・24・女・無職) ●誰もがどこかで自分の可能性を見

つけられる、居心地良い村だと思います。自由に音楽の輪に入れて楽しかったです。音が交錯せず、調和がとれている感じ。遊ぶならメイン会場で、住むならこっちな、という感じ (佐々木真理子・48・女・シンガー) ●協力の輪が自然にどんどん広がって、村に一体感が感じられます。いろんな色が集まって虹になっているように、みんなが必要な部分で生かされて村になっているのですね。みんな目の届くちょうどいい規模の範囲で支えあっているの、ダイレクトな励みになっているのです (臼井健二・51・男・シャロムヒュッテ) ●Time has come (ミステリーボックスのみなさん) ●みんなの心の中に火を灯しましょう (光・26・男・ファイアーマン) ●楽しい。来れて良かったです。ありがとう (あすか・26・女・遺跡発掘) ●毎日虹が見れて幸せだった。すべてが美しい。村は最高ですよ (泥谷恵子・女・信濃自然工房「山姥」) ●亡くなった魂と共に祈っているのを感じます (河本カズ・49・男・大鹿村) ●心の火が灯りました (高岡真也・24・男・カメラマン) ●ドームやオブジェなどに最適で、アジアやアフリカにおいてリサイクルにつながる一番良い素材である竹について知ってもらいたい (工藤定義・51・男・土方) ●Love All in One (やよい・女) ●カラフルな祭り。あちこちからいろんな人が集まっている (熊田野野人・31・男・不動産経営) ●命があふれている (幸紫・35・男・ヒーラー) ●楽しいワークショップだった (虹の村のRyu・男・森の便利屋さん) ●もらい煙草はうまい。ありがたさを感じる (光・24・男・学生) ●すごい

シャンティ (平和) っていう感じ。やっぱりレイヴですね (ウラシマユタカ・32・男・レイバー) ●ありがとう (日陽・28・女) ●この次、12年も待てない (レインボーシップのKEN・男) ●ありがとうの前にごめんなさい、も大切 (まむ・38・男・ミュージシャン) ●キッチンにいと、みんなと友達になれて楽しかった (なおみ・45・女・主婦) ●この祭りは、村づくりのワークショップ。みんなでやっていると楽しい (よしあきさん・22・男・会社員) ●ヨガとフリーダンスのワークショップを当日突然開くことになったのに、友達の呼びかけで多くの人達が集ってくれて嬉しいです。どんどん友達の輪が広がります (上野玄春・53・男・絵描き) ●静かで落ち着きます (岩村さん一家) ●のんびり、ゆったり、リラックス、マイペース (ターポーさん・49・男・木工家具) ●One Love Unity ●嬉しかった (葵実・女) ●今朝、平和の祈りに参加できて幸せでした (ともちゃん・女) ●みんながやり方で自然に自分の役割をみつけている。その姿を見て参加することによって、自分自身をクリアに見つめることができました (小向サダム・30・男・ミュージシャン) ●居場所がみつからず、どうしても心が満たされなかったのですが、虹の村で発見できました。心がオープンになっていく感じ。自然を楽しむような雰囲気があって、楽しかったです。自分の中心をしっかりと感じられたら、外に出てくる部分が下手に見えても構わないんだなあと思いました。いろんな作業を手伝ったりしているうちに、原点に戻って自分を見つめ直すことができました (香織・女) ●しばらくこの村で、みんなと一緒に暮らし続けたい (大勢の方々)

まつり参加者の声②

インタビュー：ほったさとこ

あやこ。19才。東京の亀有。たくさんの人に出会えてよかったです。また再会したいです。

あやこ。19才。和光大学。東京。ふだん生活している人より、色が濃い、味が濃い。ふつうのひとがなくて、逆に自分がふつうすぎて目立っちゃってショックを受けました。びっくりしたことがいっぱいあったけど、ためになりました。

まりこ。21さい。神奈川。大学4年。記録係で参加しました。まつりの裏方も見えて、いろんな経験ができた。また機会があったら来たい。

こうたろう。19才。学生。神奈川県の子。いろんな人がいて、いろんなことをやっていて、こんだけの人が出て、こんだけのことのできるの面白いなと思って。自分のためにもなったし、これからも続けられるといいなと思う。

ちえさん。東京の府中。88のまつりが、私たち夫婦にとってすごいショッキングな出会いだったの。あとあとずっと続いているともだちとたくさん出会えたのね。これがきっかけでカメラマンに専念したし。88のようなときめくような、すべてに新鮮な、うつくしい、あたたかい、そういうLOVE & PEACEのあふれていたおまつりとくらべるとそういう風なものとはちがう、そこまでは至らずっていう部分はあります。けどね、女性のティビは参加できてよかった。10年振りに再会する人たちにたくさん会えてよかった。天然木ミュージカルの子供たちに会えて涙が出ました。最後に子供達の美しい姿を見れてよかった。

ひろし。浜松。45歳。1955年生まれ。今回はホントに12年振りに会う友達なんかもけっこういたりして、それ以上会ってない友達なんかにもこれから連絡をつけようかななんて思ったりして。レイブは僕は初めてで、おじさんですけどちょっと参加しようと思っています。

明日の朝、もう帰る準備して戻るのが、大丈夫だったと思います。最後はどうのこうのということは全くなくて、すごく楽しかったし、来年やれたらすごくいいと思います。同じ場所で。2000年は継続できる年であって欲しいと思います。

ホテルの職員の方。いつの間にか時間が経っちゃったなという感じです。

ホテルの職員の方。とにかく忙しかった。

WILD FLOWERS BANDのボーカルのお姉さん
いのちのまつり2000年に参加できて、本当に嬉しく思っています。88の初回はこういうムーブメントを知らなかったの今年出ることができてすごく良かった。スタッフの人たちの頑張りとか、来ている人がすごく暖かくて、それに感動しました。

WILD FLOWERS BANDのおにいさん
ゴミをやっている人とか、駐車場の人とかもライブをやっている。力がみんな溢れていたのが感動しまして、ライブもその一部になれて良かったと思いました。

こどもたち (かずみ、7歳 まなり、5歳 わたみ4歳)
このおまつり楽しかった。いろんな人と会えて良かった。いろんな友達と遊べて楽しかった。いろんな人と会えたから良かった。キャンプサイトで目の前に牛がいたの。キャンプでお母さんにお母さんに怒られた時、キャンプでテント張った時、前の友達とか、大人の人たちとかがガム買ってくれたりした。虹の村で女の子が歌っていた時、すごくいい音だった。あのね、友達もいっぱいできたし、ここに来て楽しかった。お風呂気持ち良かった～。気持ちよかったです～。

きらきら。東京昭島。出合いの場じゃない？やっぱり12年目の巡り合わせだと思ふし、そういう意味で凄く大きな場を作っているという気がする時があるよね。

りゅうた。19歳。東京
今回来て思ったことは、自由な人が多いなと。自由って素晴らしいな。いろいろな自由があるな、と思いました。よく働きました。

秋野イサム。65歳。
今日最終日で、僕は本部の駐車場係とか、受付係の実動部隊のまん中のテント、友達とそのグループの一人でそこに居候してました。僕はどちらかというと、何もすることがなくて、あっち行って手伝ったり、こっち行って手伝ったり、気楽な立場で。僕はみんなが本当に楽しんでいるのを見ているわけね。日常に。おまつりの受付や駐車場で日夜、寝る時間数時間。そういういい楽しさがもう本当にギリギリ味わえる。そんなとこにいて今朝ね、みんな今日はフリーでやっとならリラックスしてもうニコニコして。やっとなら本部とまつりの平面が今朝から溶け合って素晴らしかったです。よかったの。大成功ですよね。嬉しい。今日はセブンも朝から外で踊ってるし。良かったですね。素晴らしかった。

南正人。
今回はダブルレインボーを見ることができて、一生忘れられないようなレインボーを見ました。ミーンミーンミーン。

けんいち。19歳
宇都宮から3日かけて自転車で来ました。このまつりは全く知らなかったの、来てみて会場に入ってみてなんだこれはと思いました。でもみんな笑顔で平和そう、自分もまつりスタッフとしてみんなと触れあって、いろいろ出会いもでき楽しかったです。またこのような機会がありましたら絶対参加してみたいです。

けん。45歳
とにかく今日まで、今の時間帯までトラブルなく、中止っていう事態になってないことを幸せだと思う。すごくいろんな人と出会えたということがこのまつりの意味だと思うし。レイブチームとまつりのチームも共存共栄しあったということも意味があると思うから。この次のいのちのまつり、12年待てないから、もうちょっと早くやって、というのが感想です。